

事務事業評価シート

(平成 23 年度実施事業)

事務事業名	防災施設整備事業			事業コード	0027
所属コード	015000	課等名	消防防災課	係名	
課長名	長谷川晋也	担当者名	吉田慎哉	内線番号	2524
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

1 事務事業の基本情報

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	安全な暮らし	コード	2
	施策	自然災害対策の推進	コード	1
	基本事業	防災体制の強化	コード	2
予算費目名	一般会計 9 款 1 項 1 目 防災施設整備事業 (001-05)			
特記事項				
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度 <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	平成 7 年度	
根拠法令等	盛岡市地域防災計画			

(2) 事務事業の概要

被災者及び避難者 1 万人を想定した備蓄品を整備する。

(3) この事務事業を開始したきっかけ (いつ頃どんな経緯で開始されたのか)

阪神淡路大震災を契機として、被災者及び避難者への毛布等の備蓄の必要性が求められ、地域防災計画に位置づけられて開始した。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

備蓄品目の充実が求められているが、予算確保が困難であり品目の充実が進んでいない。

2 事務事業の実施状況 (Do)

(1) 対象 (誰が, 何が対象か)

市民 (避難者) 及び備蓄品

(2) 対象指標 (対象の大きさを示す指標)

指標項目	単位	21 年度 実績	22 年度 実績	23 年度 計画	23 年度 実績	26 年度 見込み
A 想定される避難者数	人	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
B 簡易トイレ	セット	0	0	0	0	100
C アルファ米	食	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000

(3) 23年度に実施した主な活動・手順

- ・東日本大震災の発生に伴い使用したアルファ米の補充（22,000食）
- ・収容避難場所にポータブル発電機及び投光器等を配備（発電機 205台、投光器 410台）

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績	26年度目標値
A 簡易トイレの整備数	セット	0	0	0	0	100
B アルファ米の更新数	食	1,600	10,500	6,000	22,000	6,000
C 避難場所標識の整備数	基	0	0	0	0	5

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

災害時に被災者等が応急生活をするための必要最低限の食料を備蓄する。また、被災者用の簡易トイレを備蓄する。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績	26年度目標値
A 簡易トイレの在庫数	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	セット	76	76	76	76	150
B 更新計画に対するアルファ米の充足率 =在庫数÷計画数	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input checked="" type="checkbox"/> 維持	%	85	100	100	100	100
C 整備計画に対する避難場所標識の充足率 =設置数÷計画数	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	%	90.6	90.6	90.6	90.6	95

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	2,722
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	399	1,803	1,260	0
	⑤その他()	千円	0	0	0	21,229
	A 小計 ①～⑤	千円	399	1,803	1,260	23,951
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	176	176	200	200
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	704	704	800	800
計	トータルコスト A+B	千円	1,103	2,507	2,060	24,751
備考						

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

備蓄品の整備充実を進めることにより、被災者に対し毛布や食料を迅速に提供でき、防災体制の強化が図られることから整合している。

② 市の関与の妥当性

盛岡市地域防災計画の中に位置づけられており妥当である。

③ 対象の妥当性

市民 (避難者) に対する支援を目的とするものであることから妥当である。

④ 廃止・休止の影響

市民 (避難者) に対し、精神的、肉体的に大きな負担をかけることになり、安全安心が保障されなくなる。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

品目及び数量の拡大をすることにより、多くの被災者の要望に迅速に対応できる。

(3) 公平性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

盛岡市民全体を対象としていることから公平である。

(4) 効率性評価

アルファ米は消費期限があること、アルファ米の購入契約に際しては契約検査課に依頼していることからすでに事務の軽減は図られており、これ以上の削減はできない。

4 事務事業の改革案 (Plan)

(1) 改革改善の方向性

備蓄品目の拡大と保管場所の確保

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

予算の確保

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

23年度は、東日本大震災の避難者対応のためアルファ米を大量に消費し、備蓄の残りが8,000食となったことから、不足する22,000食を購入するとともに、使用済み毛布はクリーニングを行い避難場所に再配備した。なお、再配備に当たっては、遠隔から運搬しなければならなかった東日本大震災の反省点を踏まえ、備蓄箇所を増やすなど分散備蓄を進めた。

また、停電時対策として、全避難場所（205箇所）にポータブル発電機及び投光器等を配備したが、今後は被災自治体等の事例なども参考にし、備蓄品の確保に努めることとしたい。